

2025 年度日本インドネシア知識交流セミナー

シンガポール事務所

クレアシンガポール事務所は、2017 年から総務省とインドネシア国家行政院（NIPA）との共催で、「日本インドネシア知識交流セミナー」を開催しています。このセミナーは、両国の先進事例の共有による課題解決と自治体間の交流促進を目的としています。

セミナーはオンライン形式で実施し、今年度のテーマは「自治体間・民間との連携による地域課題解決」で、日本から東京都と横浜市、インドネシアからジャカルタ市と西ジャワ州が参加し、「洪水問題」および「緑地活用」の先進事例を発表しました。あわせて、島根県美郷町とバリ州マス村による姉妹都市交流セッションを開催しました。

- 東京都における気候変動を踏まえた風水害に対する取組

東京都の発表では、気候変動を踏まえた豪雨対策と流域対策の取り組みが紹介されました。降雨量の増加に対応するため、河川・下水道設備の強化に加え、雨水を貯めたり浸透させたりするグリーンインフラの活用が進められている点が説明されました。また、周辺自治体や民間事業者との連携を強化し、地域全体で浸水被害を減らすための体制づくりが進んでいることが強調されました。

- 横浜の緑政策 ～緑地の機能：緑地の活用事例～

横浜市の発表では、「横浜市水と緑の基本計画」に基づく、市民と行政が協働して進める緑地保全と活用の取り組みが紹介されました。樹林地や農地、公園など多様な緑を守り育てるため、市民参加型の森づくりや農のある暮らしづくり、まちなかの緑地推進が行われています。また、市民団体や企業との連携により、里山保全や公園施設の活用など、地域とともに緑を生かす体制が広がっている点が説明されました。

- ジャカルタ市における洪水制御

ジャカルタ市の発表では、近年の降雨量の増加や地盤沈下、沿岸部での潮の満ち引きによる影響を受けやすいことなど、複合的な要因で洪水が深刻化している状況が説明されました。これに対し、堤防整備、浸水の軽減に向けたインフラ整備の進展が発表されました。また、チリウン川の正常化や巨大な貯水池を整備する「ジャクティルタ・プロジェクト」など、複数年にわたり進められている大規模な政策により、洪水対策が進むとともに、周辺エリアが地域住民の交流の場としても利用されている取り組みが紹介されました。

- 西ジャワ州における緑地空間の開発と保全

西ジャワ州の発表では、都市化が進む北部では森林が減っている一方、南部では再植林によって自然が戻りつつある状況が紹介されました。こうした変化を受け、土地の使い方を見直すルールの整備や、「緑の森運動」による森林や水源の保全など、環境を守る取り組みが進められています。また、生物多様性保護区をつくって在来植物を守る活動も広がっています。さらに、企業や大学、地域の人々が協力して植樹や環境教育を行うなど、地域全体で緑を増やし守る動きが強まっていることが述べられました。

インドネシアでは、急速な都市化により都市部の洪水リスクが高まる一方、地方には未活用の緑地が残り、観光資源としての活用が期待されています。政府は洪水対策と緑地の保全・活用を両面で進めており、セミナーでも日本の治水や緑地管理、公民連携の事例に高い関心が寄せられました。

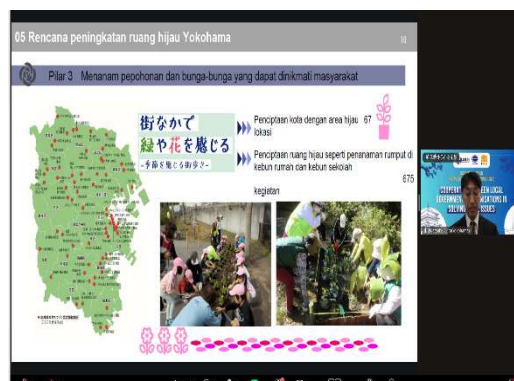
セミナー後半では、島根県美郷町とバリ州マス村の30年以上にわたる姉妹都市としての交流事例が紹介されました。当事務所では、日本とASEANの友好協力の深化を背景に、新たな姉妹都市提携を推進しています。

今回のセミナーには約800名が参加し、両国の自治体間連携の重要性を再確認しました。クレアシンガポール事務所は、今後もNIPA等との連携を深め、日本・インドネシア双方の課題解決や地方自治体間の交流を促進する活動を継続し、両国の関係深化を支援していきます。

す。



セミナーの様子



事例紹介（横浜市）の様子

（早日渡所長補佐 宮崎県派遣）
（上田所長補佐 富山県魚津市派遣）

